地域文化は人がつくる」人は地域文化がつくり、

特任准教授 若林 朋子立教大学大学院21世紀社会デザイン研究科プロジェクトコーディネーター

地域に根ざしたアートプロジェクトの興隆

的多い。
的多い。

一次の20年ほどの間に、日本全国で、地域に根ざしたアートプロジェクト(以下、地域でまだが、芸術ジャンルは現代美術が比較る。もはや総数を把握するのは困難なほどる。もはや総数を把握するのは困難なほどの間に、日本全国で、地域に根ざしたアートプロジェクト(以下、地域に根ざしたアートプロジェクト(以下、地域に根ざしたアートプロジェクト(以下、地域の多い。

トフェスティバル」と称され、観光と結びつ規模の大きなものは「地域芸術祭」「アー

を呼ぶ。3000年の歴史を誇る地域資源後オンセナート」「道後アート」も毎回話題後別では、逸早く2000年に始まった、中は例では、逸早く2000年に始まった、中は例では、逸早く2000年に始まった、中は例では、逸早く200年に始まった、中は別では、逸早く200年に始まった、中は別では、逸早く200年に始まった、中は別では、逸早く200年の歴史を誇る地域資源を呼ぶ。3000年の歴史を誇る地域資源を呼ぶ。3000年の歴史を誇る地域資源を呼ぶ。3000年の歴史を誇る地域資源を呼ぶ。3000年の歴史を誇る地域資源を呼ぶ。3000年の歴史を誇る地域資源を呼ぶ。300年の歴史を誇る地域資源を呼ぶ。3000年の歴史を誇る地域資源を呼ぶ。300年の歴史を誇る地域資源を呼ぶる。

を現代アー と現代アー と現代アー と現代アー り、いまやり上げており上げており上げておる の道後温泉 でして道後 温泉を訪れる人々もいる。

アートの道具化が指摘される。しかし、そん乱立とか飽和状態などといわれ、しばしば各地で急増した大規模な地域芸術祭は、

していることは頼もしい。

アートプロジェクトは昔もあった?

Kovama Gallery/Dogo Onsenart2018

地域アートプロジェクトには、アーティス地域アートプロジェクトには、アーティス・・イン・レやリサーチを行う「アーティスト・イン・レやリサーチを行き、という形もある。作家ジデンス」(AIR)という形もある。作家がデンス」(AIR)という形もある。作家ががある地域に一定期間滞在し、作品制作は、異なる文化的背景に触れる機会とす地域側は、住民が作家の創造的な思考や価値、異なる文化的背景に触れる機会とす地域側は、住民が作家の創造的な思考や価値、関する文化的背景に触れる機会とす地域関する。

国内の著名なAIRに、四国・徳島県神

みをも提供してくれる。 文化の長い歴史と豊かさを再発見する楽し る。現代の地域アートプロジェクトは、地域 応答した形で折々再構築されてきたのであ まれたものではなく、昔から存在し、時代に た。つまり、AIRをはじめとする地域アー 史を掘り起こせば、日本各所で行われてい て住民と交わりながら行う作品制作は、歴 絵師や工芸士、俳人などが、地域に滞在し していた。まさにAIRである。こうした、 の屋敷に滞在し、地域住民と協力して制作 絵)」を、招聘された絵師たちが庄屋や富豪 して作品を制作・展示する。この事例が興味 ス」がある。1999年にスタートし、毎年 トプロジェクトは、ここ数十年でにわかに生 阿波人形浄瑠璃の舞台背景画「襖絵(屛風 AIRが盛んに行われていたことである。 深いのは、神山町では江戸後期にはすでに 国内外の作家3~5名が約2か月間滞在 町の「神山アーティスト・イン・レジデン

アートとまちづくりを行う多彩な主体

文化活動が各地で多彩に行われており、文 とも、豪農や豪商、町人、商人といった民間 支援大国である。時の権力の擁護を受けず た日本は、世界屈指の長い歴史を持つ文化 しがられた経験がある。国家主導ではなく 化の国フランスの文化関係者にうらやま できた。現代でも、企業等民間の文化支援、 人らが主体的に地元の文化活性に一肌脱い 域文化が各地で脈々と継承されてき

> 提供する非資金支援もある。 術、マンパワー等の経営資源を 触れる機会を提供したり、芸術団 地域文化に対する支援活動も盛 施設の数は世界で類を見ないし、 あった。美術館や博物館、 民間の文化貢献意識が高いことへの賛辞で 元の祭りも応援する。場所や技 体や作家に資金支援をしたり、地 んである。住民に気軽にアートに 民間企業が設置・運営する文化 、劇場など、日本の

ح 図2 地場企業の文化活動を筆者が取材・編集した書籍(2005年、企業メセナ協議会)

化やアー 地元の文 れらが、 は確かで きたこと く支えて トを力強

ある。

て周知に努めている。企業以外に、民間の文 と活力ある地域の明日を創る」という企業 する冊子『ふるさとのちからこぶ』も発行し 成を達成している。郷土芸能、創作芸能の 助成する。2020年11月現在、計58回、中心とする瀬戸内圏域の地域文化活動を 理念を定めたことをきっかけに、愛媛県を 動助成制度」がある。創立50周年に「潤い 1227件、総額約2億3800万円の助 1992年から継続している「地域文化活 保存・継承を後押しする。助成先を紹介 ?成には特に力を入れており、地域の芸能 愛媛県では、株式会社伊予銀行 が

> のあるまちづくりに貴重な足跡を残した。 な取組みを行う「共同メセナ」として、文化 たが、複数の個人や企業が参集して文化的 演などを提供した。活動は既に幕を下ろし 年間にわたって地域住民に美術展や舞台公 域では、八幡浜商工会議所が中心となって 1994年に発足したメセナ八幡浜が、20 化支援組織の存在もある。愛媛県八幡浜地

まちづくりになぜアートなのか

2011年の東日本大震災だった。 像度をあげれば、アートが地域に必要な理 響をもたらすこともある。しかし、より解 関係人口が増加し、地元経済にプラスの影 に、アートプロジェクトによって交流人口や 処方箋として語られることがある。たしか 活性化では、アートが地域課題を解決する 由は「人」に行きつく。それを実感したのは、 まちづくりとアート、アートによる地域

紐帯であり、 可欠な日常のリズムであり、 ちから聞こえてきた。地元の祭りや郷土 ように感じていたが、 期・復旧期には文化や芸術の出番はない 2011年の秋祭りを開催したいと切実 された方々が、発災後の早い時期から 支えとして祭りの開催を願う声があちこ のが流失した三陸地方沿岸地域で、 に願っていることを知った。生命維持 復興支援に携わっていた筆者は、 地域の人々が生きていく上で不 コミュニティの自治なのだ 津波であらゆるも 仲間を結ぶ

と知った。



図3 東日本大震災 芸術・文化による復興 支援ファンド「百祭復興」(企業メセナ協議会)



装束や道具を整え2011年9月

に復活した岩手県大槌町城山虎舞

図4

地域社会が欲

る場所」である

される地域の誰もが自由に参加できる入会 な入会地を共に育てていく。こうして形成 と連携してネットワークを構築し、文化的

従来のアートによる地域づくり、とりわ

関、

商店街、寺社仏閣等のさまざまな主体

⑤地域の文化拠点には地域内外の文化 が求められている的営みを繋ぐプラットフォーム機能

文化やアートは、今日まで無くなること る人々が必要としている。だからこそ、 しているというよりも、

地域を構成す

地域の文化・アートは、

で実施されているアートプロジェクトを

なく継承されてきたのだ。いま現在各地

④地域の文化資源の保存や開拓、住民 ③文化拠点には「記憶」を保存、共有し、 ⑥地域の文化施設は、文化拠点として 相互の交流を仲介するコーディネー 会の変化に適応していかなければな のビジョンを構築・更新しながら、社 「共感」を創造、発信する装置である 調査研究から得られた6つの論点 -』(2013年、地域創造)

②文化施設の根本的な存在意義は「文 続可能な地域社会に不可欠な存在①地域を支える人材を育む文化は、持 化的な繋がりを求めて人々が集まれ

ことが求められている

図 5 『災後における地域の公立 文化施設の役割に関する調査研究報告書 一文化的コモンズ形成に向 けて

文化的コモンズ」の概念

となっていることが肝要である。

の土地に暮らす人々の切実な願いが土台

100年先の未来の伝統とするには、

た。被災地の実地調査の結果、 役割を検討する調査研究チームに参加し を紹介したい。筆者は、2012~13年 くりを考えるヒントが見えてくる。 ロジェクトによる地域の活性化やまちづ プロジェクトに置き換えると、アートプ 化拠点」 点が把握できた。この「文化施設」 に東日本大震災後の地域公立文化施設 人とのつながりを求めて集える場所」を 甚大な被害を受けた被災地域の方々は、 最後に「文化的コモンズ」という概念 (傍線は筆者)を、地域アート 図 5 の 6 文

> 施設、保育なる、病 ニティを形 性 =コモンズ」のように機能することの可能 地域コミュ である。

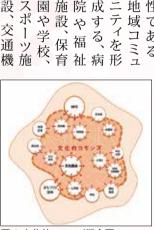


図6文化的コモンズ概念図

設、交通機 スポーツ施

> いう発想から、「アートを介して、人と人、 のは、入会地を出入りする一人ひとりの存 がちだったが、これからは、地域コミュニティ け都市部においては、アートのみで完結し は「文化的コモンズ」と表現した。 地のような文化的営みの総体を、本研究で 換である。 在である。「地域社会にアートをつなぐ」と が望ましい。その際、いつも念頭に置きたい アートを切り口に地域をつくっていくこと まな領域の主体と資源を共有しながら、 全体を「文化の入会地」と見立てて、さまざ

ターが必要である

若林 朋子 フロフィール

へと地域をつないでいく」という視座への転

自由に出入りできる「入会地(いりあいち)

こから見えたのは、非常時に限らず、文化

欲し、文化施設にもそれを期待していた。そ

施設が、地域コミュニティにおいて、誰もが

調査研究、自治体の文化政策やアート リー。各種事業のコーディネートや執筆、 術支援の環境整備等に従事。13年よりフ 会で企業が行う文化活動の活性化と芸 務を経て英国で文化政策を学んだ後、 文化やアートの可能性を探る。 会人大学院教員。社会デザインの領域で NPOの支援等に取り組む。16年より社 1999~2013年企業メセナ協議 ルーツは四国・徳島県。デザイン会社勤

3